

電波資源拡大のための研究開発 令和4年度事前評価結果

案件名	実施予定期間	評価会での主なコメント	評価点
空間伝送型ワイヤレス電力伝送の干渉抑制・高度化技術に関する研究開発	R4-R7	<ul style="list-style-type: none"> ・空間伝送型ワイヤレス電力伝送は、今後急速に発展すると予想される分野であり、無線電力伝送の応用範囲を飛躍的に広げるカギとなるテーマである。 ・現状の課題・問題点を分析し、伝送制御、給電制御、電磁環境評価の観点から、干渉抑制技術、新たな周波数帯への技術対応、大容量化や多数接続化等の高度化技術に関する研究開発を、早急に実施することの必要性は極めて高い。 ・本課題は、国内制度化のみならず、グローバルな研究開発課題として、ホットになりつつあるテーマであり、我が国が国際的な動きに遅れることなく、関連技術を蓄積し、知財の獲得を進めることは、我が国のプレゼンス、産業競争力強化の観点から重要と判断される。 	3.8

電波資源拡大のための研究開発 令和4年度事前評価結果

案件名	実施予定期間	評価会での主なコメント	評価点
周波数資源の有効活用に向けた高精度時刻同期基盤の研究開発	R4-R7	<ul style="list-style-type: none">・無線システムの時刻同期技術の開発は、中長期的に見て必要性があり、挑戦的な目標ではあるが電波資源拡大のための研究開発として実施する意義は高いと考える。・数十ナノオーダーの時刻精度が得られることにより周波数資源の時間軸での不要な占有を効率的に抑制・管理し、周波数資源のひっ迫を効率的に緩和すること及び近距離端末間の通信における遅延低減／通信量向上が期待できる。・本技術については、国際動向として民生展開への関心も高まりつつあることから、その流れに遅れることなく、知財の獲得を含め、関連技術の蓄積を図ることは、我が国のプレゼンス、産業競争力強化の観点からも極めて重要と判断される。	3.8
テラヘルツ波による超大容量無線LAN伝送技術の研究開発	R4-R7	<ul style="list-style-type: none">・テラヘルツ帯を利用した無線システムの検討が高まっており、無線LANを実現可能性の高いシステムとして想定して、要素技術の開発を進めることは、国際的な競争の上でも重要な意味を持つ。・本課題は、我が国のローカルエリアネットワークを支える電波資源拡大の側面だけでなく、IEEE802標準化における我が国の主導権確保の観点からも重要と判断される。・ユースケースが大容量無線LANでよいのか。本件を進めるならば、国が先導してこの帯域の実用化を推進することの意義を認識しなければならない。	3.8